

経済の活性化を図り、将来の登別市を担う子どもたちを生まみ育てる世代が、安心して子育てできる環境を整備する必要があると考えております。

そして、確かな経済活動による生活の安定は、まちの状況や地域の現状を見つめ直す心の余裕を人に与え、そのゆとりは地域でのまちづくり活動や、知恵と優しさやぬくもりを持ち、地域ぐるみでの子育て支援に取り組む気運の高まりにつながるものと考えております。

地域ぐるみの大きな愛に包まれた子どもたちは、このまことにいつまでも暮らしていたいと考えると、いつかきつと、登別市をさらなる発展へと導く人材に育ってくれるのではないのでしょうか。

## まちづくりに取り組む『3つの視点』

わたしは、この目指すべきまちづくりの考えのもと、『総合計画第2期基本計画』の後半が、これからの『道しるべ』として、必要なまちづくりの方向性が盛り込まれているか、平成22年度に確認作業をしっかりと行った上で、平成23年度以降の5年間で、

将来にわたり登別市を支える『人材を育むまちづくり』  
経済の活性化を支える『人材が活躍するまちづくり』

地域活動がまちを支える『人材が活躍するまちづくり』

という『3つの視点』に基づき、まちづくりに取り組んでまいります。

## 『3つのまちづくり』市民と創る『のぼりべつ』未来への新たな挑戦

平成22年度については、この『3つの視点』に基づき、次の

- ・安心とぬくもりのあるまちづくり
- ・活力を生むまちづくり
- ・担い合うまちづくり

の『3つのまちづくり』に具体的に組み組むとともに、『市民と創る『のぼりべつ』未来への新たな挑戦』をテーマに掲げ、平成22年度を迎える市制施行40周年を『3つのまちづくり』に含め

て、登別市の将来が夢と希望に満ちたものとなるよう、市民力を結集して取り組んでまいります。

## 安心とぬくもりのあるまちづくり

登別市を生涯にわたって生きがいややりがいを感じ、安心して暮らすことのできるまちにするためには、市民が豊かに暮らすことのできる経済基盤の確立、日々の生活に安心感を持つことができる保健福祉の充実や将来計画を持った都市基盤の整備、防災対策、消防力の向上に取り組む必要があります。

市民が安心して暮らすことのできる事業は、しっかりと継続してまいります。これからは特に、子どもたちが健康やかに心豊かに育つことができる教育環境の整備といった『安心とぬくもりのあるまちづくり』に取り組むことが大切であります。

国において少子化が進む中、小さな自治体が大変な変革をもたらしつつは非常に困難なことであると十分に理解をされているところであり、常に新たな取り組みについて模索し、登別市の少子化に歯

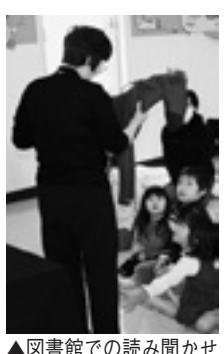
止めをかけ、わたしたちに元気と活力を与えてくれる子どもたちの笑い声があふれるまちを実現したいと考えております。

## ◎『次世代育成支援行動計画』後期計画』の策定

『安心して子どもを生み、健康やかに育てる環境づくり』のさらなる推進と子どもを養育する子育て家庭への支援の充実として、『次世代育成支援行動計画』後期計画』を平成22年3月に定め、子育て世代が安心して子どもを生み育てることをできるよう取り組みを進めてまいります。

## ◎読み聞かせなどの拡充

子どもたちが未来の登別を担うべく、優しさと強さを兼ね備え、心豊かに成長していくためには、0歳児からの取り組みが必要であります。すべての赤ちゃんと楽しくあたたかな時間を過ごし、穏やかに成長することを願い、読み聞かせなどについての拡充に努めるほか、新たな手法について検討してまいります。



▲図書館での読み聞かせ

## ◎富岸・新生地区の子育て支援拠点の開設

乳幼児の子育てを対象とした取り組みとして、子育て支援センターが行う育児などの支援など、ハード・ソフト面の充実を図るため、平成22年度にこれまで未設置でありました富岸・新生地区の子育て支援の拠点施設として、市内で初めて公共施設などを活用した『地域子育て支援拠点事業』の『ひろば型』を開設します。

開設に当たっては、民間のアイデアなどを活用するため委託することとし、親子が気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で交流を図る場を設けるとともに、現在の養育時に欠かかっているとされる自然との園や自然を活用した『出張ひろば』を展開するなど、バリエーションをもった子育て支援を行い、さまざまな地域のニーズに対応してまいります。

また、乳幼児に加え、就学前児童を対象とした取り組みとして、幼稚園と保育所の機能を一つにする幼保一元化について国の動向を注視しつつ、当市における新たな認定こども園の取り組みについて具体的に検討してまいります。